



CANOA だより

47

2010年12月発行

文・写真_鈴木真由美 編集_橋口博幸 発行_ブラジル事務局
Praia do Esteveao s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP: 62800-000

早いもので、二〇一〇年も終わりに近づいてきました。今年一年を振り返ってみて、初めに頭に浮かんでくるのはなんでしょうか？私の中に浮かんでくるものは「新たな挑戦」です。カノアで行ってきている活動の基盤が出来上がっている中、私たちの活動を生かしながら、市内の他地域での活動の協力も行うようになってきました。まだまだ微力で、大したことを行っていないのが現状ではありますが、少しずつでも、私たちの活動の良いところをほかの地域にも伝えていくことで、もっと多くの子どもたちの生活、地域活動がより良いものとなってくれることを願っています。

そして、料理教室に、あーすフェスタへの参加。日本のスタッフの皆さんにも心から感謝したいと思います。一人一人ができることを、できる範囲で……

そう思っているだけでも、いつも同じメンバーが忙しい中力を貸してくれています。それでも、「彼らがいるから大丈夫」と感じられる、その存在だけで私たちは活動を続けていくことができます。これからも皆さんのご支援、ご協力を受け、それを日本国内外の活動に生かしていくことができるよう努めていきますので、引き続き応援のほど、よろしくお願いいたします。

■「学資支援」のお願い

ブラジルでは現在、「子どもと直接かかわる職業の人はすべて、大学の教育学部に通学もしくは卒業していること」ということで、私たちの現地スタッフの内2名（フラビアーニとパトリッシア）が見事市内の大学の教育学部に合格し、この2月より通学しています。

* 私立のため一人当たり：

授業料（月謝）+ 交通費 + 教材費 = 約 18,000 円 (R\$300.00)

その半分を支援していこうというプロジェクトです。そのため現在、毎月約 18,000 円（二人分）を学資支援しています。支援方法は、会員の支払い方法と同じです。（最後のページ参照）但し、コメント欄に「学資支援」と書いていただけますよう、お願いいたします。



あーすフェスタ かながわ二〇一〇

九月十一、十二日に地球市民プラザで行われた「あーすフェスタかながわ二〇一〇」に参加しました。当日スタッフとしてかわつてくれた皆さん、本当にありがとうございました!!

物品販売を行ったのですが、ラビリントだけでなく、貝殻アクセサリを販売することができました。実演販売もしたそうで、アクセサリ作り体験は好評だったようです。商品を販売するだけではなく、少しでも多くの方にカノアの活動を知ってもらおうきっかけ作りができたと思っています。

参加したスタッフからは商品の改善点や、今後の出店（他のフェスタやバザーなど）においての注意点を聞くことができ出店してよかったと思っています。

今後もこういった機会には積極的に参加していけたらと思っていますので、スタッフとしてだけでなく、お客さんとして、ぜひぜひ足を運んでもらえたらと思います。

慶応大学医学部国医学研究会 (IMA)



三回目になりますが、「慶応大学医学部国際医学研究会 (IMA)」を現地にお迎えし、今回はカノアではなく「Cacimba Funda (カッシンバ・フンダ) 地区を対象とした「シャーガス病」の調査を実施しました。アラカチ市保健局のみならず、アラカチ市内の私立大学「FVJ」の看護学部の全面協力を経て、機材や備品だけでなく、学生二十名が参加した大規模調査団となりました。カッシンバ・フンダ地区はアラカチ市内で最も貧しい地域の一つであり、土壁の家がまだ数多く残っています。また、水道などのインフラが整備されておらず、ごみの回収も一部を除き行われていません。こういった衛生上の問題に踏まえ、土地には多くの虫が生息しており、シャーガス病をもたらす「シガメ」がいまだ多く存在します。調査期間中に住民により届けられたシガメはシャーガス病に感染しておらず、家庭訪問の際に捕獲したシガメすべて感染が確認されませんでした。調査の結果陽性者一名でしたが、家族にシャーガス病の感染者がいると答えた人が一〇・七パーセントのことからも今後も感染防止に向けた予防及び啓蒙活動が必要でしょう。アラカチ市保健局をはじめ、FVJの看護学部が引き続き現地での活動を行ってもらえることを期待しています。

かながわ国際交流財団の 支援によるプロジェクト

「ブラジル東北部の貧しい漁村における、地域住民への教育支援プロジェクト」として、二〇一〇年四月一日〜二〇一一年三月三十一日まで事業を実施しています。今回のプロジェクトは青少年を中心に活動しているのですが、二〇一〇年八月より保育園にて研修生を受け入れるようになりました。そのうちの一人についてお話ししたいと思います。

彼女の名前は「Rayane（ハイアーニ）」現在高校一年生です。小学生の時に両親が離婚し、その後、母親は家を出てしまいました。長女はたった十四歳で兄弟五人の面倒を見なければなりません。近所に住んでいる叔父・叔母の力を借りて、なんとか生活している彼ら。ハイアーニは次女で二番目ではありませんが、家事は大の苦手で、母親への反発もあり、次第に家に寄り付かなくなりまし



た。友達の家を渡り歩き、そのうちに売春をするようになってしまいました。本人は寂しさを紛らわしていただけだったといっていました。その間学校にも通わず、道を彷徨う日々が続きました。そんな時、村の青少年グループに関わるようになり、私たちと一緒に地域活動に参加したり、フェスタの準備を積極的にするようになっていきました。それと同時に学校にも再び通い始めるようになったのです。高校生となった彼女に声をかけ、研修生として迎え入れることができました。とは私にとっても大きなことでした。三ヶ月の研修期間を終え、彼女は将来についていろいろと考え始めているといえます。これから彼女がどんな人生を歩んでいくのか。遠くから見守っていききたいと思っています。

味の素の支援によるプロジェクト

前回もご紹介しましたが、味の素「食と健康」国際協力支援プログラムより、『園庭菜園及び地域で入手可能な食材を利用した子どものための栄養給食プログラム』として二〇〇九年四月一日より事業を実施しています。ブラジル味の素との協力も行われており、現在プロジェクトは順調に進んでいます。また、私たちの活動が味の素本社の社内ニュースレターでも紹介されました。

プロジェクト二年目となり一番変わったことといえば、他地域からも講座への参加希望者が来ること、そして、栄養失調の子どもを抱えた母親が訪れるようになったことです。

私たちが活動するエステーヴァン村から車で十分ほどの村に住んでいる十二歳の女の子「ナタリーアーニ」は見た目、六歳くらいにしか見えません。肌もカサカサで、血色も悪く、骨が浮き上がって見えるほどの栄養失調です。母親も小柄で細身ではありますが、それにしても身体の成長が著しく損なわれていることがわかります。本プロジェクトの専属栄養士であるVirginia（ヴァイジーニア）先生が診察を始めると、驚くべき事実が次々と明らかになりました。母親は臨月で彼女を生みましたが、出生体重はたったの一千グラム。すぐにも保育器に入れるべきで

すが、なんと専門病院に移送されたのが生後三日。その後、二か月ほど入院しましたが、退院後は生後九か月まで専門病院で定期的な治療を受け、それ以降、特別な診療は行われませんでした。彼女は過度のアレルギー体質であることが見受けられるのですが、いまだ検査を受けられていないとのこと。まずは牛乳の飲料を禁止し、そのほかにも一日の献立や日常生活上での注意を行いました。そして、二週間ごとに栄養士及び小児科医による定期健診を受けている彼女。体重は五〇〇グラムずつ増えており、肌の発疹も治まってきました。アレルギー検査は発疹があつてはできないので、専門病院でのアレルギー検査を受ける日が着々と近づいています。極度の栄養失調である彼女ですが、学校ではクラスでいつも一番。母親はそんな彼女を誇りに思っています。

こうした子どもたちの健診は当初予定されていませんでしたが、一人の子どもがあることがきっかけで私たちのもとを訪れ、専門家の定期的な健診を受けることができるようになったことで人生が大きく変わろうとしています。一人でも多くの子どもがより良い人生を歩んでいくことができるよう、心身共に幸せに生きていくことができることを強く願っています。

サッカー教室支援

マルシアアーノ・サントス・フレイリス

二〇一〇年はエステーヴァン村だけではなく、近隣地域の子ども達も積極的に受け入れ、スポーツによって社会性や社交性を養っていくことを目的として活動しています。体力や身体の成長及び発達のみならず、生活の向上を目指し、積極的な社会活動への参加を促すことで、私たちの団体の発展にも貢献してきたいと思っています。

毎年一月に行われるチャンピオンシップでは、五度目の優勝を飾り、子ども達だけではなく、保護者や家族みんながとても喜んでいました。その後、毎週土曜日に行われているトレーニングの充実を図り、今年から入ってきた新しい子ども達にテクニクだけではなく、身体の発達全体にかかわる指導を積極的に行っていました。このように広く近隣の子ども達からのサッカー教室への参加希望者が増えたことをとてもうれしく思っています。そして七月に行われたトーナメントでは残念ながら三位となりましたが、こうした試合が行われるたびに子ども達が成長

していつているという実感があります。目標や目的もなくなったスポーツのトレーニングをしていくことは困難であり、それを考えると、こうした試合に参加できていることは重要であると考えています。

現在毎週土曜日夕方五時〜八時まで、七〜十三歳の子ども二十一名を受け入れています。トレーニングには毎回すべての子どもが参加しており、こうしたスポーツに参加することで、日常生活だけでなく、将来に向けて健康的な体、生活を持てるようにこれからも応援していきたいと思っています。

*サッカー教室への寄付も随時受け付けています。コメント欄に「サッカー教室」とお書き添えの上、ご支援のほどよろしくお願いいたします。また、いらなくなったサッカー用品（ボールやユニフォーム等）も募集しています。ご興味のある方は事務局までご連絡いただけますよう、お願いいたします。



音楽プロジェクト

MUSIC FOR CANOA

パトリツシア・マルケス・ダ・シウバ

二〇一〇年、音楽プロジェクトのメンバーは再び集まり、今後の方針についての話し合いを重ねました。大きな課題となっているのは、指導者と参加者の多くが週二回の授業に遅刻もしくは欠席することによる、楽団としてのまとまりに欠けているということでした。そこで、三度目の正直ということもあり、参加意欲のある、意識の高い人十五名に参加者を限定し、指導者も改めて、まずは楽団としての活動を充実させることにしました。それにより、地域の青少年たちも興味を持つようになり、責任感を持って活動に参加してくれるようになるのではないかと考えたのです。

十五名という小規模ではありますが、目標をきちんと掲げ、それを達成するために参加者が一丸となって活動していくということはとても大事なことだと思っています。私もクラリネットを吹いていますが、楽器を奏でているときはとても幸せで、このような機会をもらえたことに心から感謝しています。

これまでの授業を振り返ってみると、私を含めたすべての参加者が今まで以上に学ぶ意欲を持ち、何名かは指揮者であるアトウーに個人授業をお願いしているほどです。今回の話し合いで決められた多くは、モチベーションを保つために十分な役割を担っており、これから参加してくるであろう他の青少年を手伝っていきたいという気持ちが出てきています。だからこそ、これからもこういった機会が失われることがないよう心から願っています。なぜなら私たちの将来は、私たちが信じてくれている人達の豊かな夢にかかっているからです。

*音楽プロジェクトへの寄付も随時受け付けています。コメント欄に「音楽プロジェクト」とお書き添えの上、ご支援のほどよろしくお願いいたします。また、いらなくなった楽器も募集しています。現在私たちは管楽器、木管楽器を中心に活動しています。ご興味のある方は事務局までご連絡いただけますよう、お願いいたします。



子育て日記より

我が家には六歳と二歳九ヶ月の娘がいるのですが、この二人、面白いように性格が異なります。先日、二人で大喧嘩をしていたので、「少し静かにソファアに座ってて。」といったところ、長女はソファアの上で体育座り。一言も口をききません。うつむいたままです。そして次女。おとなしくソファアに座ったかと思うと、お気に入りのガーゼのハンカチを握りしめ、指しゃぶり。そして、突然ソファアの上で大の字になり、寝始めたのです。それを見ていた長女は目を見開き驚いた様子。しばらくして長女に声をかけ、話をしていたのですが、次女は眠ったまま。そっとタオルケットをかけ、寝かしてあげることに。そのとき長女は「なんでマリンちゃんは（この状況で）寝られるのかな？」と一言。我が家の次女。大物になりそうです。（笑）

ありがとうございます!!!

平成 22 年 7 月 1 日～平成 22 年 11 月 12 日現在までに
会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きま
した皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場
をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありが
とうございました。

これからも一人でも多くの方に会員になって頂き、カノア
の活動を共に支えていただけると嬉しいです。

目標会員 100 名!!!

*会費及び寄付を頂きました皆様(以下順不同)

安藤 一樹さま / 小川 千鶴子さま / 坂井 春菜さま /
佐藤 知子さま / 下向井 稔史さま / 村上 誠さま

*物資支援を頂きました皆様(以下順不同)

桑山 寛子さま / 三浦 左千夫さま / Maresia

カノアでの活動や生活を通して、皆さんと共に学びあうことができるのではない
だろうか? そんな思いから、現在下記の雑誌にカノアの活動のこと、日常生活で
感じたことなどを連載しています。ご興味のある方はぜひご覧下さい。

■ めたもるふおーぜ

〒 520-2271

滋賀県大津市稲津 2-15-6 (黒川方)

tel / fax : 077-546-4147

e-mail : metamor4se@yahoo.co.jp

<http://www.geocities.jp/metamoru4se/>

「光の子どもたちの会」では、会員、協力会員を募集しています。支える会では「手
工芸品の販売」「講演会」などにより多少の収入がありますが、充分な額ではあ
りません。会の運営は全てボランティアにより運営されています。1 人でも多くの
の方々に会員、協力会員になっていただき、この会を支えていただきたいのです。
頂きました会員費、協力会員費及び寄附などは、支える会の活動費、運営費と
なります。会員の方々には年 2 回の会報、講演会や、イベントなどのお知らせを、
ブラジル事務局よりお送りいたします。

一般会員：年会費 5,000 円

協力会員：年会費 1 口 36,000 円以上任意額

* 随時寄付やカンパも受け付けております。

* たったの 100 円でお米 1 kg を買うことができ、子ども一人当たりの保育
料に毎月 3,000 円が掛かっています。(活動はすべて無償で行われています)

■ 郵便振替

口座番号：00280-1-41787

加入者名：光の子どもたち-カノアの活動を支える会

■ ブラジル銀行 (Banco do Brasil) 口座

Agencia 0121-x

Conta Corrente 26357-5

Associacao Crianças de LUZ

ボランティアの皆さん、どうもありがとうございました!!!

(以下 2010 年 7 月より現在まで)

2009/7/30 ~ 2010/7/22:	Mark Arenz	ドイツ人、木工所助手
2009/9/13 ~ 2010/9/1:	Leah Fisches	ドイツ人、保育園助手、音楽プロジェクトサポート
2010/8/25 ~ 2010/9/26:	義村 翼	給食室及び用務員サポート、アクセサリ作り
2010/8/30 ~ 現在:	Angelika Fraytag	ドイツ人、保育園助手、音楽プロジェクトサポート
2010/9/2 ~ 2010/9/26:	星 久美子	給食室及び用務員サポート、アクセサリ作り他
2010/9/2 ~ 2010/9/26:	藤本 夏実	給食室及び用務員サポート、アクセサリ作り他
2010/11/8 ~ 現在:	合志 茜	学童教室助手、コミュニティーセンター補助員

